

0. 講義をはじめるにあたっての注意

講義の時間帯：火曜日3時限（12:50～14:20）

場所：新講義棟1号館・中講義室1

▽講義担当者の予定

04/13, 04/20, 04/27, 05/11, 05/18 辻原（地域環境調整工学担当）

05/25, 06/01, 06/08, 06/15 北原先生（木質構造学担当）

06/22, 06/29, 07/06, 07/13, 07/20 村上先生（福祉住環境計画学担当）

注1）シラバスに変更がありますので、注意して下さい。

注2）西先生（都市計画学担当）、福岡先生（食健康科学科、退職）は、今年度は担当されません。

注3）上記の担当者と日程は、予定です。変更になる可能性もありますので、注意してください。

注4）この科目はオムニバス形式で行われます。それぞれの教員ごとに行った評価を集計したものが最終評価になると思われますので、履修の際には十分注意してください。試験の実施時期やレポートの提出や成績の評価については、各教員の指示に従ってください。

1. 居住環境とは？

居住環境＝私たちの意識や行動に何らかの作用を及ぼすと同時に、私たちの意識や行動によって何らかの作用を及ぼされている、_____や私たちの_____をとりまく_____のこと。

私たちを取り巻く環境

┌—社会環境＝_____と_____の_____作用（人間の気持ち、心理、意識など）

└—物理的環境＝人間と_____との相互作用（（_____）_____, _____（+_____）, _____, _____など）

└—└_____環境

└—人間が手を加えた_____環境

※構築環境：自然環境に人為的な造成を加えて作り出された環境。

┌—_____スケールの違い（身体のまわり、部屋、住まい、町内、都市、地域・・・）

| ※特に住まいの内部（_____環境）と住まいの外部（_____環境）に区別することが多い。

└—_____レンジの違い（ある瞬間、1日、1週間、1年、数年、生涯・・・）

※連続的で均質な等間隔目盛りの_____な時間の概念と私たちの感じる（_____する）時間の概念は異なる。

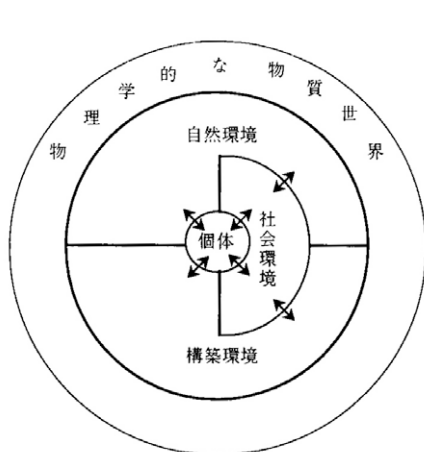


図1 環境の概念図

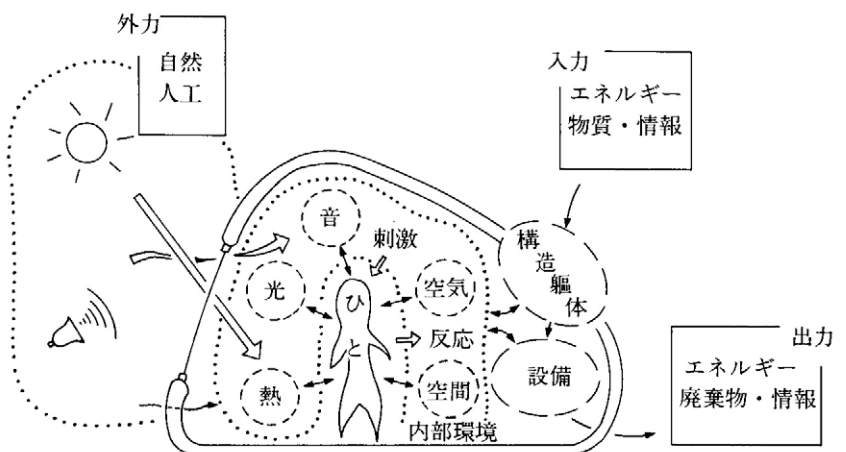
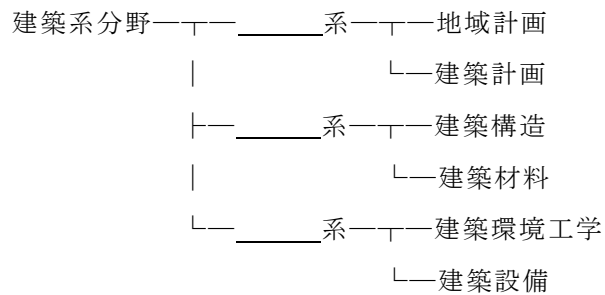


図2 住まいを中心とする環境と人間の相互作用

2. よりよい居住環境を創るために

建築系分野の枠組み



居住環境学

われわれをとりまく周囲の環境の

- 1) _____性 (→構造系)
- 2) _____性, _____性, _____性 (→環境系, 計画系)
- 3) _____ (→計画系)

を実現しようとする学問体系。

◇ われわれを取り巻く環境は、本当に良い環境なのか？

「現状の環境に満足している」＝「現状の環境は良い」と言っても良いのか？

良い環境を知らないから、現状に満足しているだけなのかもしれないのではないか？

付録（レポート・論文の書き方）

レポートは、人に読んでもらうためのものです。従って、自分で何を書いているのかわからないようなレポートは提出しないでください。レポートには必ず読み手がいます。レポートの評価を行うのは、読み手です。書き手が評価を行うものではありません。

まず、第一に、読み手に理解してもらえらるるよう、わかるよう、書くことを心がけてください。

→さらに一歩踏み込んで、読み手を納得させるためには、どのようなレポートを書けばいいのか、を考えてレポートを作成するよう心がけて下さい。

熊本県立大学附属図書館（<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/~tosho/index-j.html>）の『図書館資料検索』で、「論文作法」をキーワードとして検索すると、論文やレポートを書く際に参考となる様々な本がでてきますので、参考にしてください。

→図書館の1階に展示コーナー「大学生活応援します！」があります。参考にしてください。

熊本県立大学附属図書館に所蔵されている本や辻原の知っている範囲では、例えば、以下のような本を、読んでみては如何でしょうか。

【入門編-学生生活の基本と共に】

- 1) 『大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ』（学習技術研究会編著，くろしお出版，2002年4月，1,900円＋税，ISBN：4-87424-247-2）〔開架2，377.15||G16，0000261688〕
→改訂版あり（2006年10月，1,800円＋税，ISBN：4-87424-355-X）。〔開架2，377.15||G16，0000311457〕
- 2) 『広げる知の世界 大学でのまなびのレッスン』（北尾謙治ほか，ひつじ書房，2005年5月，1,600円＋税，ISBN：4-89476-242-0）〔開架2，377.15||Ki71，0000293704〕
- 3) 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』（松本茂・河野哲也，玉川大学出版部，2007年3月，1,400円＋税，ISBN：978-4-472-40343-9）〔開架2，002.7||Ma81，0000309779〕
- 4) 『情報と知識の海-現代を航海するための 知のナビゲーター』（中澤務・森貴史・本村康哲編，くろしお出版，2007年4月，1,800円＋税，ISBN：4-87424-372-5）〔開架2，377.15||N46，0000309780〕
- 5) 『理系学部合格したら読む本』（井手弘人・内藤克浩・根本泰雄，化学同人，2007年5月，1,200円＋税，ISBN：978-4-7598-1097-4）〔開架2，377.9||I19，0000309778〕

【基礎編-1年生からのレポート作成のために】

- 6) 『講談社現代新書 1603 大学生のためのレポート・論文術』(小笠原喜康, 講談社, 2002年4月, 680円+税, ISBN: 4-06-149603-4) [文庫本, 080||49||1603, 0000259322]
- 7) 『講談社現代新書 1677 インターネット完全活用編大学生のためのレポート・論文術』(小笠原喜康, 講談社, 2003年8月, 720円+税, ISBN: 4-06-149677-8) [文庫本, 080||49||1677, 0000273985]
- 8) 『レポート・論文・プレゼン スキルズ レポート・論文執筆の基礎とプレゼンテーション』(石坂春秋, くろしお出版, 2003年3月, 1,400円+税, ISBN: 4-87424-273-1) [3F和, 816.5, 9000006625]
- 9) 『Wordを使った 大学生のための論文作成術 思考技術・情報処理技術を書く力へ』(佐良木昌, 明石書店, 2004年10月, 1,600円+税, ISBN: 4-7503-1983-X) [3F和, 816.5||Sa69, 0000290926]
- 10) 『レポート・論文の書き方入門 [第3版]』((河野哲也, 慶應義塾大学出版会, 2002年12月, 1,000円+税, ISBN: 4-7664-0969-8) [3F和, 816.5||Ko76, 0000285910]
→初版(1997年発行)は[書庫, 816.5, 9000002010]
改訂版(1998年発行)は[3F和, 816.5||Ko76, 0000222982], [書庫, 816.5||Ko76, 0000252694]

【応用編-4年生での卒業論文も視野入れて】

- 11) 『平凡社新書 103 ぎりぎり合格への論文マニュアル』(山内志朗, 平凡社, 2001年9月, 700円+税, ISBN: 4-582-85103-7) [文庫本, 080||H51||103, 0000275301], [書庫, 080||H51||103, 0000270456]
- 12) 『NHKブックス 954 論文の教室 レポートから卒論まで』(戸田山和久, 日本放送出版協会, 2002年11月, 1,120円+税, ISBN: 4-14-001954-9) [文庫本, 080||Nh2||954, 0000276644]
- 13) 『これで安心「卒論」ラクラク基本マニュアル 卒論応援団2』(澁谷恵宜, クラブハウス, 2000年7月, ¥1,980円+税, ISBN: 4-906496-24-5) [3F和, 816.5||Sh23, 0000275899], [書庫, 816.5||Sh23, 0000241701], [書庫, 816.5||Sh23, 0000270566]
- 14) 『大学生と大学院生のための レポート・論文の書き方』(吉田健正, ナカニシヤ出版, 1997年5月, 1,500円+税, ISBN: 4-88848-378-7) [3F和, 816.5||Y86, 0000263004]
- 15) 『これからレポート・卒論を書く若者のために』(酒井聡樹, 共立出版, 2007年5月, 1,800円+税, ISBN: 978-4-320-00574-7) [3F和, 816.5||Sa29, 0000309758]
- 16) 『学生・院生のための研究ハンドブック』(田代菊雄, 大学教育出版, 2001年5月, 1,500円+税, ISBN: 4-88730-437-4) [開架2, 002.7||Ta93, 0000271825]

- 17) 『建築系学生のための卒業論文の書き方』（山口廣・笠井芳夫・浅野平八，井上書院，2008年4月，1,800円＋税，ISBN：978-4-7530-1056-1）〔開架2，520.7||Y 24，0000317372〕
- 18) 『論文はデザインだ！』（渡邊研司，彰国社，2008年5月，1,950円＋税，ISBN：978-4-395-24107-1）〔開架2，520.7||W 46，0000317373〕

上記の全てに目を通す必要は全くありませんが、気に入ったものを1冊くらい手元に置いておくとうよいと思います。

その他にも、いろいろな本がありますので、大学の売店（丸善）や下記の本屋などで探してみてください。

1) 紀伊國屋書店熊本はません店

〒862-0965 熊本市田井島 1-2-1 ゆめタウンはません 3F

電話：096-377-1330 FAX：096-377-1339

営業時間：10:00～22:00

<http://www.kinokuniya.co.jp/04f/d03/kumamoto/03.htm>

2) 紀伊國屋書店熊本光の森店

〒869-1101 菊陽町津久礼 3310(51街区) ゆめタウン光の森内 2F

電話：096-233-1700 FAX：096-233-1701

営業時間：10:00～22:00

<http://www.kinokuniya.co.jp/04f/d03/kumamoto/02.htm>

3) リブロ熊本店

〒860-0805 熊本市桜町 3-22 くまもと阪神 6F

電話：096-211-9033 FAX：不明

営業時間：10:00～19:00

http://www.libro.jp/shop_list/kumamoto/

4) 喜久屋書店熊本店

〒860-0807 熊本市下通 1- 3- 10 ダイエー熊本下通店 6F

電話：096-319-8581 FAX：096-319-8583

営業時間：10:00～21:00

<http://www.blg.co.jp/kikuya/shops/kumamoto/index.html>

5) 蔦屋書店熊本三年坂

〒860-0801 熊本市安政町 1- 2 カリーノ下通 1F- 2F

電話：096-212-9111 FAX：096-212-9890

営業時間：10:00～深夜1:00（金・土のみ～深夜4:00）

<http://www.tsutaya.co.jp/shop/tenpo.zhtml?FCID=8000>

5) 熊本大学生協の学生会館ショップ書籍コーナー

〒860-8555 熊本市黒髪2-40-1

電話：096-345-9451 FAX：不明

営業時間：8:10～19:00（土日祝休み）

<http://ha9.seikyuu.ne.jp/home/kumamoto-u/index.html>

→熊本インターカレッジコープアカデミアも参照

→→<http://kyushu.seikyuu.ne.jp/in-km/>

また、下記のホームページなどが参考になるかもしれません。その他に、自分でも、「レポート」、「書き方」などのキーワードで検索してみてください。大量に検索できるはずです。

<http://www.mycon10ts.com/linkall2.htm>

<http://frds.itakura.toyo.ac.jp/~takeuchi/general/ronbun.htm>

http://www.ceser.hyogo-u.ac.jp/naritas/write_paper/paper.html

<http://lapin.ic.h.kyoto-u.ac.jp/thesis.html>

<http://www.nanzan-u.ac.jp/~urakami/class.html>

<http://www1.gifu-u.ac.jp/~shogo/informationliteracy/index.html>

<http://www.mycon10ts.com/top.htm>

http://www.geocities.jp/chigasaki_rihabilitation/report.html

<http://www.reportreport.jp/>

<http://www.cc.kyoto-su.ac.jp/~oda/essay1.html>

<http://www.shouronbun.com/>

<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/ir/ir-navi/technich.htm/ronbun.htm>

http://www.sgu.ac.jp/eco/rp/eco_report00.html

<http://www.report.gusoku.net/>

<http://www.ia.inf.shizuoka.ac.jp/~nomiyama/report.htm>

<http://www.f.waseda.jp/sakas/lecture/report.html>

注) これらのサイトの内容については、自分の責任で確認して下さい。辻原自身が全ての内容を確認したわけではありません。